



三七全傳
 占夢南柯後記
 五
 第二篇



特別
へ13
3148
12

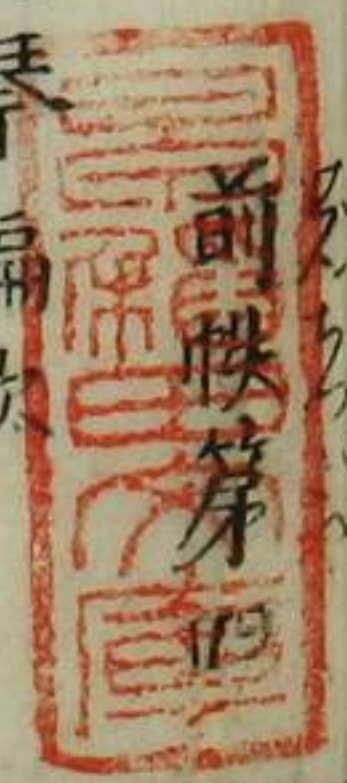


へ13
3148
12

三七全傳
第二編
占夢南柯後記卷之四ノ下

東都

曲亭馬琴編次



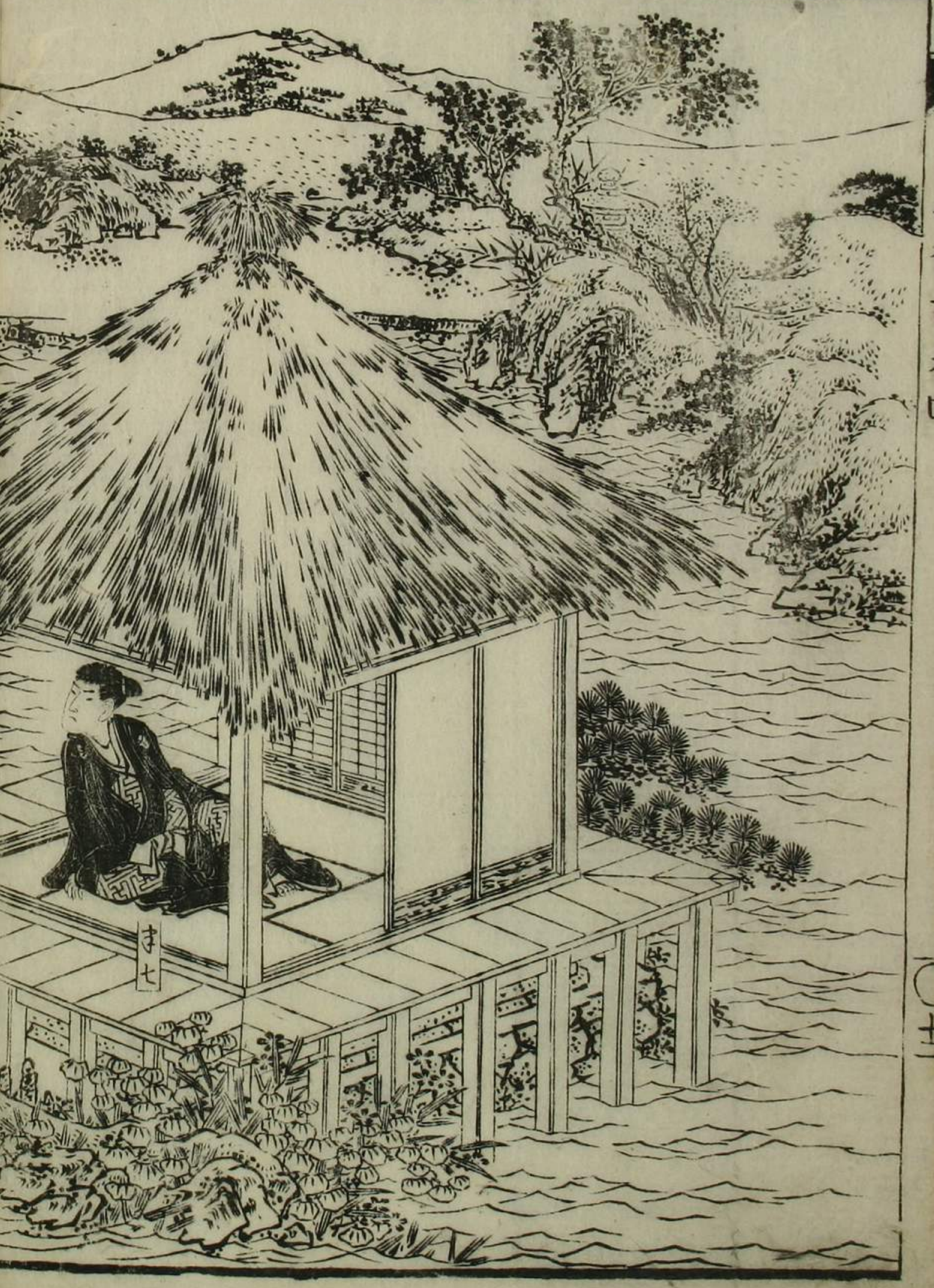
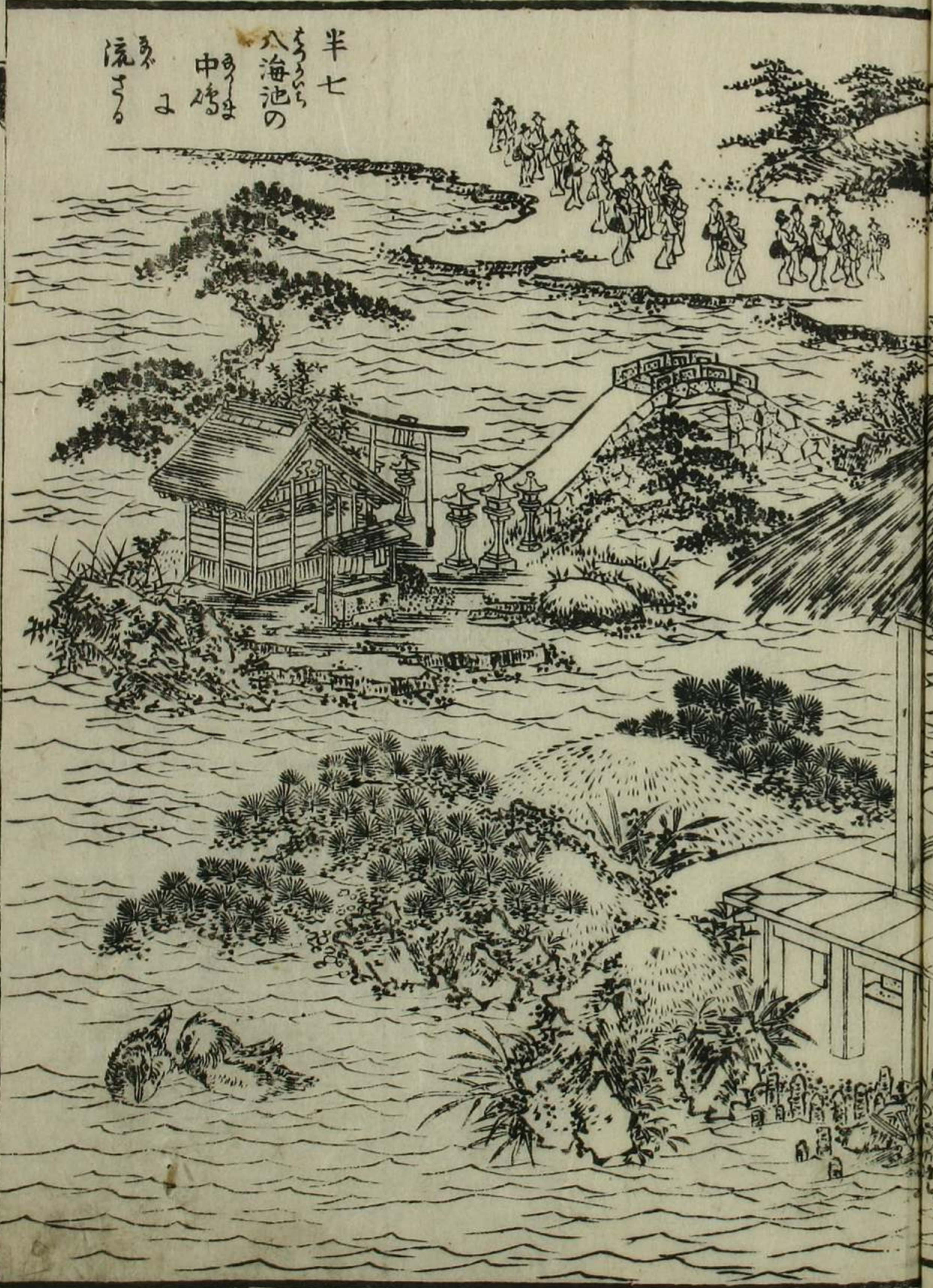
池の中嶋乃下

罪多くて配所の月とらんといひ。大宮人と和歌の浦。歌出由
あふぬ。僻言あらん。不題亦根半七の輩るれ罪と家の人よ。
代るととくべしとせぬ。林も残ぐ秋風や。假初まがら九十餘日。
八海池の中嶋多。西阿は因まてて。紙配所とかりとりごとむ。
ちのぐさる難一寤寝るなり。柳九山八海の池とせえし。八當時
鹿苑院の義満公洛北よ金閣を造り。退隱の地とせし。山水の
美景を尽さる。あうれよ永正のたどあふ至て。順勝の又錦井順服
兵茶の風流を嗜むのあまなり。彼金閣よ擬へて。三千餘町の後苑よ。

南可後記卷之四ノ下

五町の比を穿せ比の中あり。二ツの比を築せ。これを鏡湖の
 比に擬へ比中の奇石の夜泊石。龜山赤松島山。九山八海石小
 至るや。その面影をうつせしむ。やがて八海比と名づけしむ。
 かく莊院を尽すとて。驕とせ。牙の仇多く。一家の難
 い。て。頃昭をめて。その非と睡り。享祿二年の春のころ。
 彼茶亭とて。毀れ。東南の築嶋あり。辨財天と比の中。時
 ある。四阿のそと。残されし。頃昭え。辨財天と。あつく
 信。彼築嶋ふ。架する。反橋と。頃昭の討ぶ。あ
 り。彼覆志。北の比。木橋あり。彼四阿。おのづから。
 簷鼻傾。萱が棟。只。朽。月。外。あり。の
 袖の涙と透間。より。秋風のそと。音つ。あ。この。松の。声。
 時の羽。が。た。百羽。が。た。が。き。き。な。ぬ。ぬ。お。ひ。と。事。七。八。の。官。あ
 又の。母の。歎。つ。が。身。よ。あ。あ。ら。悲。比。の。波。風。の。後
 と。お。君の。怒。の。や。と。だ。て。親の。籠。居。ゆ。と。せ。と。遙。あ。の。の
 築。ある。辨財天と。祈。の。そ。え。木。淵。と。苑。る。れ。が。岩の。樹。立。よ
 遮。ら。て。中。の。人。影。も。え。え。と。只。月。の。己。の。日。毎。玉。枕。前
 内。庭。の。女。房。女。の。臺。と。お。て。毎。天。堂。へ。来。り。の。み。か。を。
 外。の。と。人。な。ま。と。悼。子。お。り。の。端。ち。う。く。の。と。日。只。三。交。の
 餽。と。管。園。より。奴。隸。と。給。と。る。その。舟。と。あ。の。の。岩。下
 教。で。あ。れ。浪。の。か。う。い。路。度。終。と。と。遙。小。念。と。お。の。こ
 お。の。比。の中。から。毎。城。天。へ。来。た。よ。ほ。げ。近。く。て。遠。き
 の。鞍。馬。の。九。折。と。や。清。少。納。言。が。書。る。ぞ。宜。ある。彼。首。よ

南河後日記卷四



えんもの小舟あらはれど。身を繋ぎて因徒も。近くて遠く神垣へ
運ぶ。越中と云ふぬ。然と形多れば世に叩つ。五月廿一日より。こよあ。と
四箇月も條つて。つとぬ月日由ゆく。秋の九月朔日よありにたり。
ある月の三日の限。せもの。百日まじや。満ぬ家。さの恙なきや。坐せ
らん。宝刀の往方とまうつ。ある。故母。此のこも。あひひ。や。そりて。
病著。あや。卧め。い。らん。その音。耗を。ま。や。し。こ。ろ。た。り。の。飛。鳥。の。
翅。ま。け。ま。び。つ。づ。ぐ。ん。家。居。の。方。と。う。ち。仰。ぎ。又。俯。沈。め。ば。水。や。空。
空。や。水。る。る。秋。の。雲。う。ら。お。よ。た。ぬ。お。の。が。牙。の。往。方。由。こ。よ。定。免。
か。行。く。姨。捨。ち。よ。あ。ね。ね。も。照。月。え。え。ぬ。朔。日。何。慰。ん。蝸。牛。の。
小。ざ。が。枝。の。う。ち。我。ぐ。久。く。ま。い。と。公。夏。憂。し。羊。七。倍。と。お。り。あ。り。
至。誠。の。神。の。如。と。い。り。誠。と。り。て。祈。や。う。う。さ。ば。い。う。で。う。納。受。乃。驗。
あ。う。ら。ん。傳。く。す。辨。財。天。女。を。念。ぶ。り。の。の。猛。利。不。可。思。議。な。
智。恵。聚。不。可。稱。量。福。徳。之。報。を。得。ん。と。光。明。徑。よ。流。ま。じ。り。
々。の。う。り。して。三。日。が。間。よ。又。が。越。え。を。許。さ。ん。て。君。臣。和。順。ま。ん。あ。の。
彼。知。の。舟。と。夜。の。中。に。こ。る。え。流。し。て。岸。よ。著。清。堂。へ。系。結。ま。じ。め。
の。人。と。毎。夜。も。水。池。も。よ。浸。り。垢。膏。を。執。て。祈。る。と。い。く。も。天。女。由。
驗。ん。せ。め。の。む。と。ん。や。三。日。あ。り。に。た。れ。が。す。て。あ。う。く。中。に。失。ひ。の。
一。日。の。日。が。又。の。生。死。の。際。よ。と。い。と。る。あ。ん。特。よ。く。あ。の。己。の。目。を。也。
玉。枕。巾。前。の。毎。天。堂。へ。あ。り。の。あ。ん。と。ん。ま。ま。ん。信。これ。も。又。卒。事。あ。の。
あ。ま。う。ら。ん。又。お。ん。肚。め。さ。る。軟。母。の。何。と。あ。り。あ。の。ん。こ。の。何。と。え。ん。
と。む。り。に。存。造。よ。ま。て。蹉。跎。し。彼。舟。と。る。と。寄。せ。め。人。舟。よ。く。と。
ゆ。抗。て。振。く。か。ひ。る。死。い。し。人。も。か。く。と。笑。く。や。鬼。鬼。の。湯。よ。法。持。ち。の。

終つて俊寛がひとり華洛を慕ひつらん。夏身ハおまどらひるらん。
 されば申す七のこの五七日。夜も通骨痛あつた。勝断は神勞れ者乃
 松が根枕ありて寝るとも志は臥しり。か。夜風のそよと身入る。あ
 驚かされて身を起せば。月入るや暮て星光も。初更の比とお母一死よ。
 早七が孝幼紙天女納受志もひらん。彼育の者お繋る舟のまのづら
 繋解てや。風も吹ぬあまがれ来て。いつの程お鳴根あり。申す七今
 此舟をんて。いつぞう云勇がらん。念願成就疑ひはと。跳り鬼て閃くと
 うら。案其知ともあまぬ。如法園夜お棹を操る。水と撞幸くくして
 毎天の舟に乗着て舟を寄よ繋る。久探るつ。流お登りて。天女の
 作堂よ訪るよ。神燈のつと暗けまど。湖上の月を仰ぐがごとく。煩惱の
 雲忽地霧て。闇浮の基よゆるん。信公併肝お徹して。
 感涙を拭ひぬむ。あが。廣前お額著て。又母の安養紙祈念
 ころお暗れくた女子とお母。一声のつと泣よけま。申す七あま
 驚れ怪も其知よと。何人ぞ。と問ふ。声を笑あつてや。その申す七
 ぬ。よとる。後初花よ侍りと。意て。あがり。又問ふ。言の
 葉も只泣むらん。やうこそあまめと申す七。神燈の光よ就て左見
 右見直バ。給ふく。また云号の外。後母女初花あり。あひうけ。後が
 涙やうくて。又いふ。よもあひり。且。く。形と改め。おん。身玉枕。前よ
 給る。よ。も。暇ありとも。夜をこめて。人教る。た。この。築。塔。ふ。た。が
 ひ。と。り。籠り。と。る。ん。ご。ろ。の。が。く。吾。儂。中。流。お。因。徒。と。る。り。下。り。
 絶て。又。母。の。音。耗。め。え。む。く。ん。の。宝。刀。を。進。り。と。ま。る。百。日。の。限。も。
 又。と。つ。つ。あ。る。の。り。の。人。る。ま。る。よ。う。あ。ま。が。志。し。て。ま。る。と。問。が。や。う。や。く

顔を擡白糸子とめて黒髪くろかみの顔かほみゆるゆる久ひさくくんんききりりつつ。後堂ごたうと
 正ただ聴きと隔へささびびののよよかかるる外そと父ちち公こうののううままくくままよよううののああくくははるるうう。後堂ごたうと
 於お憂うれのの敷しきすすくくささつつるる鼻はな月つきのの下した院いん後ご首くびのの清きよはは固かたままじじ。
 かんかん牙ががるがる紙し吹ふくくままけけけけ。ここんんよよつつけけてて胸むねくくくく。夏なつのの日ひくくくく
 啼な蟬せみののささらら裳ちやう脱だつてて羽う軍ぐんええふふ美みままささるるわわくくをを友とも己おのれ日ひくくのの
 この中堂ちゆうたうへ内うち廳りやうささままのの供くわいへへままるるとと此こゝのの遠とほ外とほはは觀かん中ちゆうのの
 回まわ阿あよよここままささひひりり陀だつつああんん。鬼おにがが清きよ峯ねのの果はるるくくんんひひ
 かのかのままくくままごごよよんんままごごぬぬ歎なげままののせせ。知ちちちおおあありり苑えんの中ちゆう中ちゆうと
 いいふふええののあありり磯いそ海うみあありり緑ろくのの幼ちゆう稚しよりより。秋あきののあありりせせ。婦めづ夫とををと
 君きみ所ところ隔へてて給たまるる。ささりりやや新あらたとと合あとと鈴すずのの間ま限かぎの中ちゆう垣かきも。
 結むすぶぶ綱つな手てののあありりううののががらら。三さん指さしのの死し人にんむむきき。それそれととらら夏なつ憂うれ舟ふね

外とち父ちち公こうありり。舅きやく君きみありり。方かたごごままのの家いへのの艱いへ小せう夏なつ癖くせのの牙がののははららく
 細こりりつつ。秋あきととくくままごごばばままののううままごご一ひと夜よささもも新あらた枕まくらかからら撫なで子こ
 女むすめ郎らう花はなをを付つけけ袖そでのの露つゆのの牙がろろ。ささりり別わかままてて清きよののとともも又また環たまご会かい
 後ののち世よはは憑よりりけけてて仏ぶつ井ゐへへ朝あさをを夕ゆふにに合あとと學まなぶぶ。命いのちをを合あへへてて
 頃ころ日ひのの給たまははれれせせとと局つづみああのの夜よあありりははててははりり。亦また二ふたのの築つた嶋しま
 ろろのの辨ぶん財ざい天てんへへ理りるる願ねがひひととううけけままくくもも。かかのの人ひと目めのの関せき松まつあありり
 糸いとふふれれどど夜よ深ふかくく階かゝびび生なむむやや。とと思おもふふととんんもも毎まい房ぶどうととふふ戸と鎖さ
 ああれればば乃なももううののふふむむ。只ただ甲か夜よのの間まのの物ものはは給たまははれれてて生なむむばばああららどど生なむむんん
 ととここかかままおおりりハハ特とくにに紙しをを病びやうのの卧ふしど房ぶどうをを脱ぬけけてて七なな夜よ清きよのの天てん女むすめ
 堂どうままののううままごごののううままごごのの舅きやく姑こ至いたるる。牙があありり接せき霧きりをを吹ふ
 へへててかかいい。かかささままるる風かぜもも飄ひらくくのの松まつのの齡としひはは又また千ち世せすすくく。まませせねねとと後のちの

世のその後の世もそめてとと背向もえせや面内ひのりの断り
断ふひてぞ祈る結願の今宵もく度この卍堂までおん身はあひん
辨財天女の償さのふちやばくもつらうと彼知より水と流りて
詣りひい。ものがの迷ひより。狐格のこまをて。真の丈夫あふぬ
くと疑へば又今更よ怖さ娘とさ揃やせてまの退死の、伏せぬま七
めて歎息し結ぶの糸のその端まられども生涯その身とあるせん
つひのめくそそかくまふとをせざる物諸女子とて夜を犯し。
七とびく通つんと浮るる馬とらおゆるえび赤くまされん
られも又親をさくば身を忘る辨財天女と遙拜して又の厄難
除るるぶくの被育の舟とて寄せ一扁系流るるさめと夜は水は
垢離と執禱日数ハ化はたちてけの一日ハ絶侍絶命天女も
感納しぬぬ物と云若しと縁やせしん勞きて小雲時目睡程よ
舟の中流る流るる原素念願空かばとやて飛する小舟ふ
棟とさるる卍堂へ詣まば。さうさ流るる由吾妹も小環会つ縁由と
同バ又それ等しく。階は来る丹誠苦行ひあはせ縁と合るる縁
災厄消除疑ひす。さるるあれど。武士の窮ふはる男女の私席を
共よせだん中それの因縁に。おん身も又病ありとて肩は縁をり
るがら。冥を裁て階出さく流るるのさるるで吾儕と真愛苦相法と
今うある人ありとつども。岩もりのふ世の縁後ふんりこれとさるる
親の罪をまはしてあふん。さうさ下向志のさう。それもさるる退ると
つひつとまをりてとえて頃日の夜の長さ。暮てまをりて同もさるるのど
誰は待たず。身もさるるのや。さるる遠くたらしめ。さるる會話をさるる。

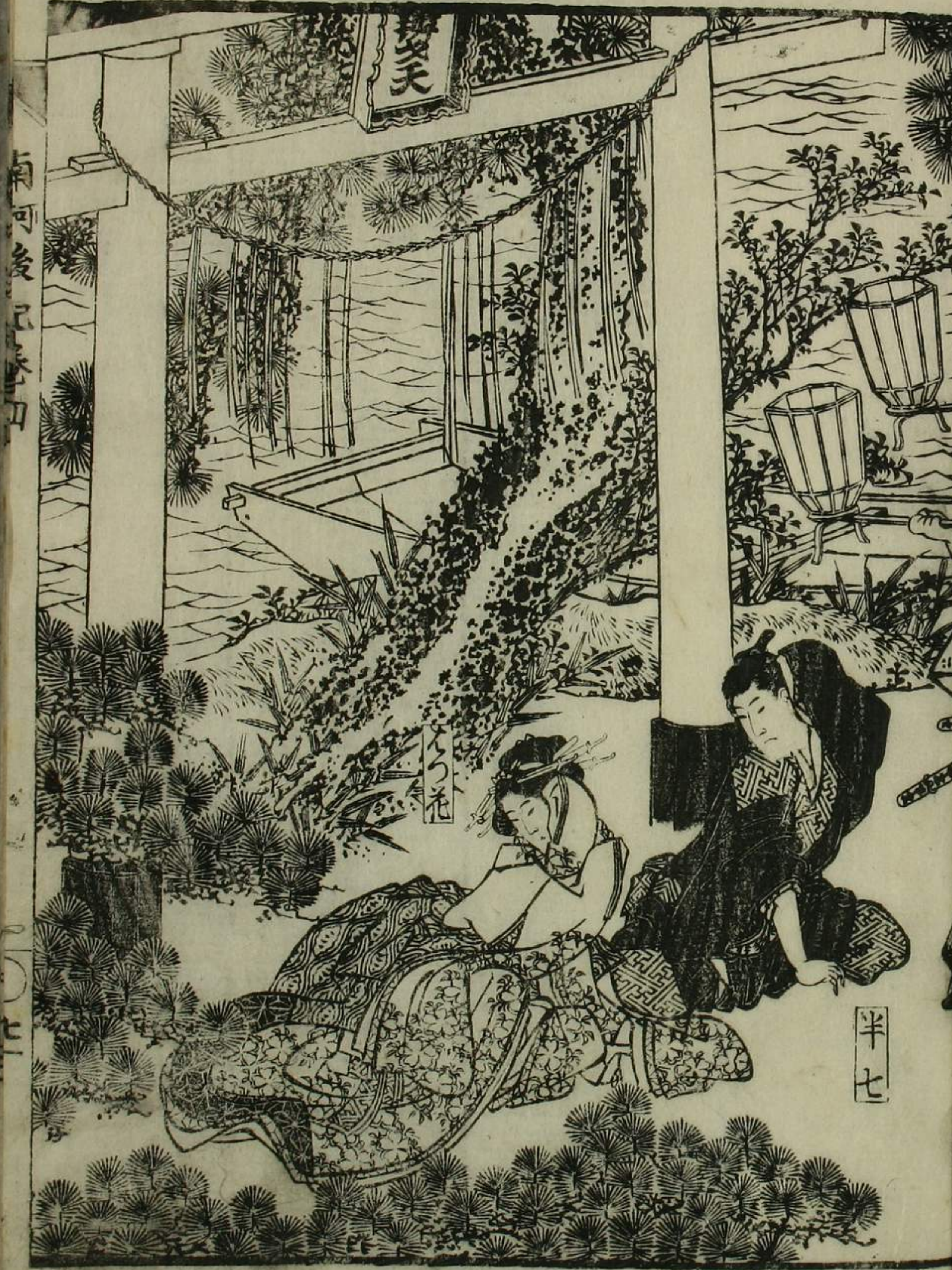
夢うとまらば一宵の真愛を尉せんといふお母さげや。おん身は今茲二十二の
 年より弱くんえもど女子の殊は更易く二十といふが和しや。
 森あるまゝに年の浪よりおとす宮の娘しるも。あてて嫁し死君と
 くれ。ひとりよららば浦島が一夜の齡老ぬとも。何ううとみん來夜
 従ひ進ん侍計の行つたお母さげや。おん身はさこそこれをおりのめ
 いらぬよあはれお母さげや。後面へえもまどおん身はさこそこれをおりのめ
 くれ。又親のつとを念とるあはれお母さげや。結さうりなる婚姻を後
 せうとせしむ。かくのこらうか人情とえあはぬのめと恨もせんが親よ
 代りば死さても辞せむと今果は妻あり子ありて人情ぬ命も惜まて
 人苦死にぬせんは只身ひとりのおまての解のまてと下りけれ。
 縁と時節をあらうとといひてと泣流る身をつゆむらりゆ
 傷らぬと孝ひとこそお母さげや。おん身はさこそこれをおりのめと死
 める親孝とせむら。こらうはよこの恨のあらん云早うての妻てふ
 めの親婚姻せ給は解とまらばや。いと強面と怨むれば半七と
 今更ふいひ腹を言のたも勅はまら給は。浩如ふ則面
 樹立の間より燈燭の光り閃くとさう出つ。前より滑石の枕
 りをた右の靴けける。燭照ふ途と照させ築嶋の反橋を
 是然と足音さう。うらむして來ぬま。玉枕清前おはする
 ちらん。この時さぬ物諸どひがけごととまて。初花の中周早
 辟隠まんとどど。只一條ある築嶋さる。橋より外
 路ゆり。おやせま。かくやせま。と胸うち發びばさうと母と
 してせんよぶさうりけり。

浮名ノ嬬ま

浩如小前驅の女房。子燭を扱て堂内なる男女と見えて大に小
 驚き。且くおん先と宛めり。堂内小癖者の階より居居るなり。と
 呼まば玉枕小前の名居のころ。お床几とまさせ。曾太郎とこと
 居させり。ば遙後方おゆけ。城松の阿と恋て袴の積をとり
 ろから。おん前へ来よけ。且玉枕小前言語正しく。如此このめ
 ありと笑り。檢見よ。と宣へば。曾太郎獲て子燭を扱て。堂の
 内なる癖者とひとりに出。燭を扱てつらく見せ。が。あ
 浅き。この癖者の外徑すと。女見初花あり。く。且怒り。見
 且怒り。狐と取りぬ。犬自物主と蔑。刺。親の面泥を塗。淫毒の
 何ぞぞ。と罵る声のいと高く。扇を揚て打んとする。玉枕小前
 まで。渠禁めよ。と重ん。仰お曾太郎。只歯を切り。握り。固め。春の
 上。お怒の涙より。出る。牙の急小半七也。初花由地小平伏て。置ぞ
 迷る草の香。このま。燭よと念ぶると。玉枕を中。猜し。多ひつ。
 下。めより。彼れのもの。と。ま。ま。ぬ。あ。ち。て。女。の。重。小
 子。燭を扱。それるる。癖者面をあ。げ。と。宣。小。る。海。狐
 志く。大地小額著。動さ。も。え。せ。度。その。と。玉枕。曾太郎。を。え
 び。り。め。ひ。正。五。九。月。の。己。の。日。み。缺。さ。で。請。天。女。堂。へ。登。の。む。と
 小。と。お。ひ。い。ふ。今。朝。より。分。る。る。の。あり。て。い。づ。ら。小。昔。春。せ。い。ふ。
 牙の懈。物。体。あり。苑。裏。る。れ。ば。甲。夜。の。間。小。糸。と。お。ひ。は。し。
 ほど。女子。の。と。ぞ。新。護。さ。ふ。曾。太。郎。を。お。て。来。り。し。の。癖。者
 等。が。運。の。究。め。面。の。や。あ。び。げ。とも。推。さ。り。君。仕。小。初。花。に。

浩如小前驅の女房。子燭を扱て堂内なる男女と見えて大に小
 驚き。且くおん先と宛めり。堂内小癖者の階より居居るなり。と
 呼まば玉枕小前の名居のころ。お床几とまさせ。曾太郎とこと
 居させり。ば遙後方おゆけ。城松の阿と恋て袴の積をとり
 ろから。おん前へ来よけ。且玉枕小前言語正しく。如此このめ
 ありと笑り。檢見よ。と宣へば。曾太郎獲て子燭を扱て。堂の
 内なる癖者とひとりに出。燭を扱てつらく見せ。が。あ
 浅き。この癖者の外徑すと。女見初花あり。く。且怒り。見
 且怒り。狐と取りぬ。犬自物主と蔑。刺。親の面泥を塗。淫毒の
 何ぞぞ。と罵る声のいと高く。扇を揚て打んとする。玉枕小前
 まで。渠禁めよ。と重ん。仰お曾太郎。只歯を切り。握り。固め。春の
 上。お怒の涙より。出る。牙の急小半七也。初花由地小平伏て。置ぞ
 迷る草の香。このま。燭よと念ぶると。玉枕を中。猜し。多ひつ。
 下。めより。彼れのもの。と。ま。ま。ぬ。あ。ち。て。女。の。重。小
 子。燭を扱。それるる。癖者面をあ。げ。と。宣。小。る。海。狐
 志く。大地小額著。動さ。も。え。せ。度。その。と。玉枕。曾太郎。を。え
 び。り。め。ひ。正。五。九。月。の。己。の。日。み。缺。さ。で。請。天。女。堂。へ。登。の。む。と
 小。と。お。ひ。い。ふ。今。朝。より。分。る。る。の。あり。て。い。づ。ら。小。昔。春。せ。い。ふ。
 牙の懈。物。体。あり。苑。裏。る。れ。ば。甲。夜。の。間。小。糸。と。お。ひ。は。し。
 ほど。女子。の。と。ぞ。新。護。さ。ふ。曾。太。郎。を。お。て。来。り。し。の。癖。者
 等。が。運。の。究。め。面。の。や。あ。び。げ。とも。推。さ。り。君。仕。小。初。花。に。

申せり。今さういふ人な。申せの中。小因縁とる。いと
す。あけの百目。及びや。きん。月額の長。うりたる。あ浪
風。吹曝。ま。る。あ。あ。倍。と。宴。又。初花。の。病。著。あり
と。給事。を。断。り。ま。世。その。目。う。う。と。同。世。の。外。よ
お。こ。る。や。備。び。て。さ。諸。る。ま。や。淫。奔。の。口。親。今。ま。よ
ま。え。志。さ。る。う。い。る。け。ま。ど。こ。曾。太。郎。の。子。と。男。女。の。密。通。の
重。禁。断。と。ま。つ。つ。の。法。を。犯。と。その。あ。ま。だ。死。る。ん。ど。も。
こ。ろ。死。う。あ。終。て。る。死。恨。あ。あ。ぬ。う。ま。あ。れ。ど。申。せ。親
たる。の。の。生。死。存。亡。定。う。ら。ら。ば。その。身。中。因。縁。と。る。う。ら。ら。ら。
溺。水。を。流。浪。を。越。こ。る。こ。へ。う。の。ま。ら。ば。何。た。の。の。乱。淫
密。会。不。義。と。や。せん。不。孝。と。や。り。ん。絶。て。人。と。あ。あ。ら。ば。
初。花。も。又。あ。ら。ど。り。外。父。の。凋。落。を。外。あ。と。天。女。の。中。堂。へ。ま。と
入。ま。靈。場。を。搦。く。ま。る。その。罪。障。の。五。百。世。浮。む。水。の。は。と。ま。ら
ど。や。この。う。屋。ま。ま。あ。げ。る。が。彼。ホ。兩。人。が。う。の。ま。と。半。之。進。も
一。家。滅。亡。曾。太。郎。も。又。ま。ら。う。あ。あ。じ。あ。れ。が。彼。ホ。が。う。道。を
あ。親。抱。兄。弟。中。で。祝。ま。さ。る。鬼。と。あ。ら。ん。軟。悼。て。も。あ。悔。む
な。抑。こ。ら。ん。か。の。中。堂。へ。月。毎。あ。ま。る。の。何。の。為。ぞ。君。と。さ。ら。こ
家。子。老。黨。凡。俗。内。よ。あ。ると。あ。る。青。人。草。の。末。あ。で。も。安。く。れ。と。の。と
祈。り。の。所。由。多。ま。あ。ら。の。冥。冥。あ。て。稚。ま。ら。う。ア。は。男。女。の
命。を。断。バ。天。女。を。恨。ま。ま。ん。う。お。ア。が。牙。を。啣。ん。う。主。の。え。ま。ら。り。て。も
ん。よ。彼。ホ。も。又。親。の。子。と。淫。を。樂。ま。迷。い。を。執。り。あ。ま。會。せ。て。あ。ら
あ。あ。れ。ど。い。い。訳。あ。り。と。も。い。い。解。あ。り。あ。ら。且。初。花。の。と



南河後記卷四

舞天

花

半七



辨天
鳴子
賢夫人
家法
正く
ま

玉枕作間

曾太郎

南河後記卷四

ちやくくうの。申七小云号て。給奉の年季満るの。婚姻をとり
 結せんと。就どもゆの豫てう。准儀をまると。飲喫つて。もありし
 うご。いまご君の免許を。びざれば。夫婦ありと。いひひがし。と。も
 脱まぬ罪人。ちる。ば。初夜。の。雅さう。う。り。か。使ふ。女の子
 ら。れ。罪。定。ん。と。勿。論。る。う。半。七。の。う。せ。ん。彼。も。い。は。任。ん。飲
 家の家。う。曾。太。郎。の。何。う。も。い。ま。ま。と。人。と。憐。む。理。非。明。白
 かる。婦。人。の。世。よ。多。く。有。が。た。ま。で。よ。少。た。仰。あり。とも。恋。う。は。て
 牙。と。悔。う。ら。む。怪。女。見。よ。う。就。の。ち。は。く。面。あ。く。も。脱。ま。ぬ。が。た
 身。の。恥。と。掩。ふ。あ。り。う。袖。の。霞。胸。さ。い。う。塞。う。て。畏。う。つ。つ。か
 め。う。見。う。く。曾。太。郎。の。塵。う。ら。拂。ひ。て。膝。不。置。卷。と。握。う。肘。を
 張。り。淫。奔。め。の。ご。も。う。け。ま。う。り。飲。凡。う。侍。女。房。達。と。

武士の女見の。と。あ。の。あ。じ。或。の。坊。賈。浮。浪。人。或。の。村。長。曲。辰。土
 ら。ん。どの。女。見。由。孫。も。あ。げ。れ。ど。武。家。お。給。り。ま。ら。ば。礼。義。正。く
 上。が。ぬ。の。り。ん。習。う。て。物。の。善。悪。由。辨。る。ふ。汝。未。の。続。井。の。諸。代
 家の政事。を。奉。る。親。も。由。終。て。憚。ら。ば。主。を。畏。ま。ぬ。大。膽。不。敵
 一の。年。末。の。奉。公。小。何。え。習。う。て。う。その。慈。心。さ。る。殊。更。小。申。す。と。う
 閑。居。え。死。親。の。大。難。ぞ。の。身。由。配。所。よ。あ。う。あ。が。ら。又。の。生
 死。の。際。さ。る。け。小。至。と。配。所。を。脱。出。女子。を。伴。ふ。放。蕩。非。法
 小。申。す。の。牙。を。八。割。お。削。ら。る。て。由。就。の。恥。辱。す。紙。贖。ふ。あ。の
 小。申。す。に。今。う。も。あ。れ。津。と。進。が。律。の。赴。と。傳。く。由。吹。う。が。腸
 熱。て。怒。ま。通。り。う。あ。る。ら。ん。これ。も。う。と。し。就。の。名。を。続。ぎ。名。を
 孫。と。四。足。兩。翼。の。白。徒。お。よ。説。笑。さ。る。も。孫。と。理。健。る。主。就。の。

その崇脱をがけけん。よりてさふふ。その罪人。ホハをがやうふ。その
 比多ふ柴浸ふせん。如此するとたの氣法を破らば。天女の巾堂
 由穢さふ至らば。この旨やての彼れ。のど中の半死をあらん
 ぶらん。人死さん。が君とある。す七初花が魂。この比多ふ漂んと死
 うらうけもの。は汝ホ真。お淫奪るる。を就とさふ誠。より。則て
 断るる。もの。あふ。いと憐へ。とさう。主ごよこま。お憐む。よ。
 皇天。ついで。憐む。らん。一目の恥辱を。忍び。魂遠く。大和と難。ま。
 親代。す。風流士の。宝刀の。往方と。さう。孫求め。て。進。う。る。が。
 忠孝。共。よ。全。う。らん。その。と。死。よ。こ。ま。舊。悪。の。浮。名。を。雪。る。比。多。に。
 魂魄。再。び。う。ま。う。親の。終。居。子。の。因。ま。て。い。づ。う。ま。う。月。と。日。を。
 百日。十日。累。ある。とも。風流。士。を。索。出。と。暇。の。絶。て。あ。は。う。ら。ば。さ。う。と
 汝。ホ。法。を。犯。し。て。比。水。お。沈。ら。れ。た。ま。し。ひ。自。在。お。天。外。を。飛。渡。り。宝。刀。の
 在。所。を。あ。ら。う。の。あ。は。う。生。る。に。ま。し。う。幸。あ。ら。ば。や。又。す。き。進。か。る。の。と。
 とも。お。く。も。君。と。縛。め。な。ま。り。て。羽。美。の。幸。の。た。り。に。は。へ。と。日。の。か。つ。ふ。は。よ。と。
 彼。ホ。が。死。し。て。後。の。日。お。一。扇。の。同。向。し。て。死。す。る。の。の。あ。ら。う。ら。ば。生。か。も
 あ。ら。う。せ。よ。衆。婢。ご。ら。う。の。や。と。誰。よ。お。け。て。釋。さ。る。縛。の。索。う。り。も
 る。何。牙。と。締。る。思。義。あ。の。今。面。り。折。る。う。り。の。不。拘。よ。あ。ら。う。る。
 す。七。初。花。の。は。さ。ら。と。曾。左。郎。の。只。續。貫。の。鬘。斗。目。の。袖。お。感。候。を。
 累。難。を。列。居。する。女。房。達。の。女。の。童。ん。と。お。た。う。の。終。共。よ。坐。お
 袂。と。儒。し。う。具。し。て。玉。枕。巾。前。の。女。の。童。お。齋。し。る。服。紗。物。を。用。し。て
 蟻。松。よ。對。せ。め。し。や。よ。曾。左。郎。例。の。ごと。く。辨。財。天。へ。進。ま。せ。んと。て。齋。し
 た。白。銀。十。枚。を。あ。ら。う。あ。ら。う。も。罪。人。お。觸。れ。し。れ。ば。今。宵。の。業。法。を

止める人。さうとせん。この白根由様まで。彼ホと水中へ沈ん。壁石
 ろく。六のむべうら。この白根の究竟の壁石。兩人が袂へ納。も
 させ。十萬億土の遙き首途死て。冥土の路費とも。あつさ。のど
 と外しく。法施の報と曾太郎。どしつ。又宣。彼ホ既。罪
 定ま。死。のふ異なる。人。最期の人。念。よ。て。永。生。を
 誓。と。云。号。する。婦。夫。の。縁。と。今。生。に。結。び。果。ど。未。来。孤。独。の
 餓。鬼。と。る。り。あ。ん。死。後。と。し。バ。今。許。と。婚。姻。の。盃。せ。バ。三。三。九。品。の
 淨。土。に。生。ぜん。この。沈。み。を。酒。は。擬。へ。親。も。許。し。て。召。さ。せ。よ。と。仰。せ。が
 曾。太。郎。の。面。を。背。け。て。鼻。う。ち。ら。う。も。這。奴。ホ。の。つ。ら。る。る。月。と。日。の。下。あ
 生。ま。そ。の。つ。ま。で。高。丸。恩。惠。を。受。く。らん。推。辞。を。あ。ん。の。物。体。は。
 冥。加。よ。あ。ま。る。罪。人。の。り。と。恋。ま。う。せ。が。腰。婢。あ。る。龍。田。吉。野。か。こ。う
 び。く。大。女。の。比。ま。の。淨。子。袴。柄。杓。と。長。柄。副。柄。あ。て。婦。夫。を。結。ま
 水。觴。言。祝。せ。後。ど。娘。の。松。風。の。青。よ。夜。の。深。く。玉。枕。こ。を。隣。て
 現。れ。つ。ら。死。ま。婦。と。く。て。送。つ。て。仏。果。を。召。る。ん。ぞ。曾。太。郎。長
 會。談。し。て。更。團。と。う。この。罪。人。あ。め。り。ら。う。も。彼。外。の。者。より。沈。身。は
 彼。よ。さ。う。う。ん。中。の。形。の。巖。打。中。骨。を。碎。る。る。く。む。ら。し。ん
 舟。の。見。當。を。た。ぐ。る。と。仰。と。う。の。彼。舟。よ。ま。せ。よ。と。あり。と。嘆。り。つ。
 ま。か。る。親。の。良。い。れ。ん。と。初。花。の。う。ち。仰。ご。う。ま。せ。も。の。後。共。よ
 今。も。堂。へ。主。と。親。と。小。辞。別。物。い。ひ。と。次。り。バ。え。よ。磐。樟。舟。の。流。し
 雞。襟。上。左。右。は。撞。廻。む。曾。太。郎。の。あ。ま。り。の。者。より。碇。と。衝。落。と。あ
 底。る。ぬ。船。の。中。白。根。さ。ん。よ。投。入。ま。て。浪。の。ま。ん。く。推。流。せ。玉。枕。前。の
 おん。声。さ。く。罪。人。ホ。が。死。骸。浮。あ。が。る。再。び。岩。へ。う。る。こ。あ。ん。曾。太。郎。の

南無後記巻四

六四

この夜の中水門を開く。下狭川の流す水は。いそがしく。と徐
ろふ床几をませり。あつち。銀燭画燭續うえて。身を。たぐ
舟く。影の女房より。前驅後後由。嬭中ふまらる。びく夜の
中。強顔。蛭松の。易ぬ。操ふる。瓜。棄る。浮世の。藪や。行植の。根も。搦
由。隔。縁。ど。圍。の。善。悪。る。丸。船。の中。目。送。る。寸。七。初。花。か。火。光。目。當。り
ふ。洋。と。繫。ぬ。舟。と。ち。く。水。の。往。方。ハ。更。ハ。定。め。る。移。り。秋。の。夜。長
歎。く。る。あ。ら。う。

占夢南柯後記卷之四終

早引人物故事

東都蘭惟九著
横本全二册

△人物故事
上古神代より近世までの事々を
事々を公卿地下人名和歌待文の事々名あらわす
賢士の累傳より幸朝儒門医学薬人僧師考士
列女の傳記と
武勇士事蹟傳記
小治政の事々
主従と事々
好士の事々
傳記の事々
要しは事々

▲ありひあはれのつゆはるく▲めととちてひらるる▲目よわしきもく又たまき▲とを
 志とせいのちり▲飛越く▲ちんがうとせいのちり▲まきまをひせんうのちのち乃ちひを
 念し▲たかしのちりく▲よれとあはし▲あごむねまをのくまき▲はひり又へうや
 るをたれとせし▲さきとく▲さきせりてむぐりく▲食まをさきあひのちりく
 ▲さきせりて大さくちり▲ちりやとかさるびなれむぐり子どもそか小児
 一切乃ちまひし月ひくたしうれ切能あることさきひをさき

上方筋賣弘所 大坂齋橋筋博勞町角 書物店 河内屋茂兵衛

関東筋賣弘所 東都大傳馬町三目 書物店 丁子屋平兵衛

京都堀河通六角下町 吉野屋勘兵衛	江省本橋室町三目 鐵屋八右衛門	信州上田柳町 蘆田屋佐久助
大坂松屋町通本町角 平野屋甚右衛門	江戸横山町三丁目 松本屋長藏	上州桐生五丁目 石井五右衛門
	尾州谷吉屋舟入町 中屋久兵衛	下総佐原橋本 正文堂利兵衛
	奥州山甚大町三丁目 熊谷屋善兵衛	野州宇都宮傳馬町 井桁屋利左門

釋尊御一代記圖會 山田意齋叟參考 前北齋老人圖画

釋迦如來の御文淨飯大王の御即位と發端と 憍曇彌摩耶而夫人の内
 如來摩耶夫人の胎内小生と託し多事憍曇彌夫人摩耶と嫉妬胎内乃
 王子の出生及夫人と道師小呪咀せしむる條如來夢中乃說法小母の十恩
 と親多々更淨飯王藍毘尼園小花の宴と催し多々悉達太子誕生の奇瑞
 悉達太子御幼稚より菩提心と發し多々謂釈迦提婆遺恨の如悉達太
 子宮中と出て檀特雪山小難行より正覺成道とて出山し衆生と濟度
 り更更迦葉舍利弗目蓮及諸羅漢佛弟と成和解耶愉陀羅女真心
 提婆多十惡須達月蓋而長者の信心流離王の暴惡釈尊御入滅五妙
 神力涅槃像の如く都て如來御一代の事と記圖と加し難有續本也

浪花 好華堂主人著編

大伴金道忠孝圖會

全部十冊近刻

此書天智天皇御宇小百濟國緩の兵と遣はれ更と首を... 大伴金道忠孝の成... 大伴真鳥兄と討つ家國と押領せ... 奸悪大友白王子浄見原天皇と御合戦の... 次弟金道の生立白虫太皇の忠義雅明... 乃我は真鳥の香枝金道万苦と凌て父... 乃仇と復し本領の安堵せし追の奇妻と... 洩さず記せし実録にて久論夫小僧... 善と勸め悪と懲と便とを面白新本也

同上

扶桑皇統記圖會

全部十冊近刻

此書八代皇四代天武天皇の御治世より六代... 醍醐天皇の御宇追の公事の根元宮廷等... 院の草創代々の人物の行条と紀と所謂... 役行者安部仲九吉備大臣衣通姫光明... 皇后良弁僧正弓削道鏡惠見押勝中... 将姫傳教大師弘法大師田村九浦嶋... 子小野篁在原行平業平小野小僧... 正遍照菅原相其外古人の実傳と探と... 精輯録し悉く圖画と如重宝の書と

書

林

京都寺町通佛光寺	河内屋藤四郎
江戸日本橋通壹丁目	須原屋茂兵衛
同 貳丁目	山城屋佐兵衛
同 貳丁目	須原屋新兵衛
同 四日市	山城屋政吉
同 本石町十軒店	英 大 助
同 下谷御成道	英 文 藏
同 大傳馬町貳丁目	丁子屋平兵衛
同 芝神明前	岡田屋嘉七
江州 八日市	小 杉文右衛門
大阪心齋橋筋博勞町	河内屋茂兵衛

